

～北広島市第5次総合計画の推進に向けて～

平成25年度検討テーマ

「にぎわい・魅力づくりプロジェクト」に関する

提言書



平成25年10月

北広島市総合計画推進委員会



## 平成 25 年度の検討に向けて

北広島市総合計画推進委員会では、市が総合計画において特に重点的・戦略的に取り組むべき施策として設定された「重点プロジェクト」を軸として意見を交換することとし、昨年度の「子育て支援・人づくりプロジェクト」に続き、平成 25 年度は「にぎわい・魅力づくりプロジェクト」の検証を行い、市のにぎわいづくりや魅力づくりに関する事業について提言書として取りまとめました。

### 基本方針（平成 24 年度決定）

委員会では総合計画においてめざす方向を踏まえて、重点プロジェクトに位置付けられた事業について、市が行った事務事業評価の結果や事業に関係する資料をもとに検証を行い、総合計画の着実な推進に向けて検討を行います。

また、新たな施策・事業の提案、手法の工夫・改善、類似する事業の追加や整理・統合、予算配分などについても効率的かつ効果的な推進をめざし検討してまいります。

## 平成 25 年度 検討テーマ

『にぎわい・魅力づくりプロジェクト』

【展開方針】

### ①まちなぎわいを創出

～イベントや観光、農業、商工業などさまざまな分野の取組みを有機的に結び付け、地域特性を生かして、市内外の人・もの・情報の交流を促進していきます。

### ②活力あるまちづくりを展開

～身近な観光資源などまちの魅力を発掘して、市内外にPRすることにより、交流人口や定住人口の増加を図り、持続可能な都市を実現していきます。

「魅力づくりと情報の発信」、「にぎわいの創出と交流の促進」、「活気ある産業の創造」を主要な取組みとし、各々に掲げる具体的取組みを横断的に取り組むことにより、このプロジェクトの総合的な達成を図ります。

## 提言書について

『にぎわい・魅力づくりプロジェクト』の主要な取組みである「魅力づくりと情報の発信」「にぎわいの創出と交流の促進」「活気ある産業の創造」について、プロジェクトのめざす方向性、具体的な取組みと現状、市としての評価を整理したものを、委員会において検討をした結果を提言として取りまとめました。

## 1. 魅力づくりと情報の発信

### 【めざす方向性】

市の魅力の向上に取り組むとともに、身近な観光資源などまちの魅力を発掘し、市内外へ情報を発信していきます。

### 【具体的な取組みと現状】

#### ①観光資源や魅力を発掘

シティセールスの基となる、観光をはじめとした北広島の資源を発掘・再発見していくため、北広島市観光協会との連携による観光振興や、自然・歴史・文化遺産などを現地でそのまま保存・育成・展示して学ぶエコミュージアムの普及推進などを図り、「地域ブランド」<sup>※</sup>づくりを実施している。

#### ②市内外へ情報を発信

市の魅力の紹介、市政情報、市民活動などを伝える広報紙の発行や、市の情報とともに災害時緊急放送や行方不明者情報を提供するコミュニティFM放送、市民との協働によりインターネットTVを通じた市政・地域情報の発信を実施している。

#### 《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

観光資源や魅力を発掘します	エコミュージアム普及推進事業 観光振興事業 観光基本計画策定事業 きたひろしまシティセールス事業
市内外へ情報を発信します	広報紙発行事業 コミュニティFM広報事業 協働事業きたひろTV推進事業

### 【市としての評価】

北広島市の魅力を創出し、地域ブランドとして発信していくための施策として有効であり、施策全体としては概ね現状の展開で効果があるものとするが、新たに開始したばかりの事業もあり、効果測定による一部手法の見直しや関連事業との統合を検討して、より効率的な実施をめざすこととする。

#### 注「地域ブランド」とは

ここでは、まちの産品や行政サービス、人を呼び込むための各種イベントなど、まちの魅力として全国に発信していく資源のこととします。

### 【今後に向けた提言】

- 北広島市の魅力や地域ブランドづくりは、人口の減少傾向を抑制するための方策の基本となる要素であり、多くの人々を惹きつけることができるよう、まちの産品や行政サービス、人を呼び込む各種イベントなど「まちの魅力」の充実を図っていくとともに、積極的に情報を発信していく必要がある。
- 「シティセールス」については、地域ブランドとして創出・発信すべき事業の集積的プロジェクトとして位置付け、市役所全体が一丸となって、明確な目標を定めて計画的かつ早急に推進していく必要がある。

### 【具体的提言】

- 若い世代の北広島市への定住については、ニーズが多いと思われる子育て支援や教育環境の整備などの施策を積極的に展開するとともに、多様なメディア媒体を活用して、多くの人々に伝わり、理解されやすいプロモーションを実施していくことが必要である。
- 定住の促進にあたっては、移住に関する不安解消や理解向上のため、市外の方が北広島市での生活を体験する「おためし移住」を実施して、移住希望者が必要とする各種情報とともに体験談などを、WEB サイトなど様々なメディア媒体の活用により発信していくことが必要である。
- 市内の自然遺産・文化遺産を「学び」「理解する」機会を、今後ともより多くの人々に提供していくとともに、施設整備を除いて「文化財の保存・活用事業」や「郷土文化伝承事業」を「エコミュージアム普及推進事業」に統合し、効率化を図ることが必要である。
- 観光事業の発展に向けては、観光協会への支援だけでなく、市民との協働による観光事業の企画など独創的な事業展開を図るとともに、市外向け情報発信拠点として JR 北広島駅内などへの観光案内所の設置を検討する必要がある。
- 広報活動については、広報紙のあり方を検討するほか、北広島市を PR する事業が各部局においてそれぞれ実施しているように見受けられるので、一つの事業に統合して大きい枠組みの中で展開していくことが必要である。
- シティセールスの推進にあたっては、地域ブランド情報を発信した結果、北広島市に対するイメージアップの度合いをはじめ、移住者数や観光客数の増加などを調査・分析して反映させる必要がある。
- シティセールスのイメージロゴ等については、現在、「クラーク博士」関係が多く見られるが、以前からあった「エルフィン」（妖精の住むまち）についても混在していることから、効率的なシティセールスの展開に向けて整理する必要がある。

## 2. にぎわいの創出と交流の促進

### 【めざす方向性】

交流人口や定住人口の増加に向けて、地域特性を生かして、市内外の人・もの・情報の交流やイベントを促進し、まちのにぎわいを創出していきます。

### 【具体的な取組みと現状】

#### ①イベントなどを促進

交流人口の増加に向けて、市民との協働による北広島市芸術文化ホールでの各種事業やエルフィンロードを活用したマラソン大会の実施のほか、観光事業の発展やイメージアップを図るための事業を実施している。

#### ②交流を促進

交流の促進に向けて、市民レベルでの地域間交流の機会提供や大学が有する資源等を生かしたまちづくりをおこなうとともに、多くの人々が交流しやすい場を提供するため、エルフィンパーク交流広場など施設運営のほか、学校跡施設の有効活用に向けた検討を実施している。

#### 《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

イベントなどを促進します	芸術文化ホール運営委員会連携事業 きたひろしま 30km ロードレース連携事業 全国中学生空手道選抜大会連携事業 観光振興事業
交流を促進します	大学連携推進事業 地域交流事業 駅周辺まちづくり推進事業 エルフィンパーク活用事業 サイクルネットワーク構築事業 レンタサイクル事業 学校跡施設利活用検討事業

### 【市としての評価】

にぎわいを創出し、交流を促進していくための施策として有効であり、施策全体としては概ね現状の展開で効果があるものと考えるが、一部の事業で費用対効果の観点からの見直しや具体的な方策の検討を必要とするものもあることから、より効率的な実施をめざすこととする。

### 【今後に向けた提言】

- 市内外の多くの人々が北広島市に集い、交流することは、定住人口の増加に向けた第一歩となることから、より多くの人々が参加して交流が図られるよう、市民や民間団体等との協働・連携を充実していく必要がある。
- より多くの人々が集い、憩い合う場を創出していくため、利用者等が持つアイデアやニーズを把握し、交流などで人々が集う場について、グランドデザインの明確化や整備に向けた具体的な計画を策定していくことが必要である。

### 【具体的提言】

- 大学との連携については、大学が有する知的資源を活用した公開講座やシンポジウムなどに加えて学生の活力を地域に生かすため、自治会などが実施する防災訓練への協力など、大学と行政の連携がより多くの人々にまで波及して効果をもたらすような、実効性がある事業にしていくことが必要である。
- 市内で実施している各種イベントについては、他自治体でも同様のものがあることから、特色を持たせていく必要がある。また、効果的な事業展開を図るため、参加者の年齢や性別、住所等の調査や、事業目標の達成度、参加者の満足度などの分析をしていく必要がある。
- 市内で実施しているイベントや交流事業については、市外から多くの人々を呼び込み、北広島市を知ってもらうアイテムであることから、日常的に集客力のある地域や、参加者が最も多く集まりそうな地域を選択して開催するなど、効果的な事業化に向けて検討する必要がある。
- 北広島市における「にぎわいの創出」に向けた方策については、民間団体で構成し、多くのまちづくりのアイデアを実現している「大通まちづくり会社」などの事例を参考として、民間とのコラボレーションを検討していく必要がある。
- JR北広島駅周辺のまちづくりの推進については、交通結節点として施設の利便性や安全性を促進していくとともに、北広島市の顔としてふさわしいイメージを構築したうえで、整備に向けた具体的なプランの策定などを検討していくことが必要である。
- JR上野幌駅周辺のまちづくりについては、自然環境との調和や駅機能を生かした商業施設などの立地誘導を図るとともに、安全で快適な歩行者空間の整備に向けて札幌市などの関係機関と連携した中で、具体的なプランの策定などを検討していくことが必要である。
- サイクルネットワークの構築については、市内における交流の促進に向けた整備の観点から、他自治体との広域的なネットワークと切り離して、市内のサイクリングロードの充実やイベント活用事業を優先的に進めていく必要がある。
- イベントや交流事業を実施する施設については、訪れた人々が気軽に過ごしやすくなるような軽食喫茶などを日頃から開設するなど、より利用しやすい環境づくりを検討する必要がある。

### 3. 活気ある産業の創造

#### 【めざす方向性】

イベントや観光、農業、商工業などさまざまな分野の取組みを有機的に結び付けていくとともに、地域産業の振興を図り、活力あるまちづくりを展開します。

#### 【具体的な取組みと現状】

##### ①グリーンツーリズムや食の安全の取組みを推進

北広島市の農業を地域ブランドとして売り出していくため、食の安全な取組みとしての食育や食に関する指導を推進するとともに、農業への理解や農業の関わりなどを学ぶ機会の提供や、農産物の直売や体験型農業など市民と農業が交流するグリーンツーリズムの推進を実施している。

##### ②新産業の創出やコミュニティビジネスの育成、地域商業の振興を図る

地域特性を生かした新産業の創出や新製品等の開拓促進に向けて、産・学・官の連携をめざすとともに、地域経済の活性化に向けた商店街への振興事業やコミュニティビジネスへの創業支援のほか、雇用の創出のための企業誘致を実施している。

#### 《現在取り組んでいるプロジェクトでの事業》

グリーンツーリズムや食の安全の取組みを推進します	食育推進事業 食に関する指導の推進事業 野菜づくり講座事業 食農教室事業 菜園パーク促進事業 グリーンツーリズム推進事業
新産業の創出やコミュニティビジネスの育成、地域商業の振興を図ります	北広島クラスター構想事業 空き店舗利用促進事業 地域商店街活性化事業 小規模事業指導推進事業 企業誘致推進事業 コミュニティビジネス創業支援事業 きたひろしまシティセールス事業

#### 【市としての評価】

地域産業の振興を図り、活力あるまちづくりに向けた施策として有効であると考え、具体的に進展が見られない事業や事業の効果が減少傾向になっている事業も散見することから、様々な可能性や方策を検討し、より効果的な事業展開を図っていくこととする。



### 【今後に向けた提言】

- 大都市に隣接している地域特性を生かし、農業がより多くの人々にとって魅力となるよう、関わりなどを学ぶ機会や交流しやすい環境づくりを行うとともに、体験型農業や観光農園などの事業を積極的に推進していく必要がある。
- 活力あるまちづくりとともに定住人口の増加に向けて、地元企業・地域商店街に対する支援を引き続き行うとともに、市民の雇用を拡大させていくための企業誘致や雇用支援などの施策について、さらなる充実を図っていく必要がある。

### 【具体的提言】

- 人々と農業の交流を行うグリーンツーリズムについては、農産物の直売や体験型農業など多くの人々にとって参加や関わりやすい事業であり、地域ブランドとして市外に発信する主要項目として、さらなる充実と積極的なPRをしていく必要がある。
- 産・学・官の連携をめざす北広島クラスター構想の推進にあたっては、産と学の参画が進展していない現状を分析して課題を整理するとともに、クラスターに関係することによる優遇措置などを検討し、その結果を企業や大学に対して投げかけていくなど、参画しやすい環境づくりを先行していくことが必要である。
- 企業の誘致については、企業の進出に伴って多くの人々が集まり、雇用が発生し、定住につながることから、東京などで開催される企業誘致フェア等のイベントを活用した積極的な推進を継続していく必要がある。
- 企業の誘致については、工業団地を造成するハード面の事業展開だけではなく、若い人材パワーや市の付加価値を高めることができるような人材を結集させていく視点に立った誘致活動を行い、新産業の創出にも結び付くような施策を推進していく必要がある。
- 空き店舗については、東部地区において増加する傾向にあることから、空き店舗を少なくするための対応策を推進していくとともに、地域商店街の活性化に向けた地元企業の支援など、さらなる施策の充実を検討していく必要がある。
- 北広島市における「にぎわいの創出」（地域商店街の活性化など）に向けた方策については、民間団体で構成し、多くのまちづくりのアイデアを実現している「大通まちづくり会社」などの事例を参考として、民間とのコラボレーションを検討していく必要がある。

【2. にぎわいの創出と交流の促進での具体的提言を再掲】

## 検討の経過

平成 25 年度は、5 回の会議の後、提言書を提出しました。

日程	回	内容
平成 25 年 5 月 22 日	5	交代委員の委嘱、平成 25 年度委員会の進め方の協議、にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る事務事業評価についての説明
平成 25 年 6 月 25 日	6	にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る事務事業についての検証・意見交換
平成 25 年 7 月 24 日	7	にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る事務事業についての検証・意見交換
平成 25 年 9 月 17 日	8	にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る提言についての検討
平成 25 年 10 月 8 日	9	にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る提言書についての検討・まとめ
平成 25 年 10 月 22 日	—	にぎわい・魅力づくりプロジェクトに係る提言書の提出

## 総合計画推進委員会名簿

役職	氏名	職業等
委員長	鈴木 聡 士	北海学園大学工学部生命工学科教授、市都市計画審議会・専門委員
副委員長	澤 井 将 美	前 学校法人浅井学園（北翔大学）参与、前 市外部評価委員会委員
委員	天 羽 浩	公認会計士、前 市外部評価委員会委員、前 指定管理者候補者選定委員会委員、前 学校跡施設利活用に係る公募提案審査委員会委員
委員	桂 裕 章	札幌柏葉保育園長、前 市長期総合計画審議会委員
委員	東 愛 子	北海道大学公共政策大学院博士研究員

